地域おこし協力隊通信

わたしのうと活動記

地域おこし協力隊って？
都市部から移住し、地域の魅力づくりやお手伝いをする制度です。農業や観光、PRの支援など、地域の課題に取り組みながら、ここでの暮らしを楽しみ、定住を目指します。宇土市地域おこし協力隊は、今年新たに8人着任し、総勢10人で活動しています。

まちづくり推進課所属
吉田　裕史
協力隊mission
秘められた宇土のポテンシャルを少しずつ引き出し、発信する

宇土での豊かな暮らしに魅せられて

宇土の皆さん、こんにちは。宇土市地域おこし協力隊の「よっすぃ」こと吉田です。2025年６月に移住して半年がたちました。宇土にはノリやかんきつ類など、おいしいものがいっぱい。日々の活動に疲れた時、県道57号の海沿いをバイクで走ると気持ちのよい風に気分が上がります。天草のとびきりの海鮮を１時間で食べに行ける環境といい、宇土の生活の質の高さ（QOL）を実感しています。そのおかげで地域おこし協力隊の活動をカードゲーム化することに成功。市役所で2025年10月、初めてワークショップを開くことができました。

「うとぐる」の投稿は100記事超えに

7月に始めたインスタグラム「うとぐる」(@uto.guru)は毎日更新。宇土市に関する投稿は100記事を超え、宇土市の飲食店全店掲載というゴールが少しずつ見えてきました。宇土の若者に地元の情報を届けるのがインスタのコンセプトですが、幅広い年代の皆さんにも見ていただいており、うれしいです。頑張りますので、店主の皆さん、よっすぃが来たらよろしくお願いします。

インスタグラム「うとぐる」

休みの日は宇土半島をバイクで走っています

食卓mano（網田）の鹿のステーキ

eスポーツで高齢者の笑顔をつくる

宇土市地域おこし協力隊の有馬義之介です。

地域の公民館などで行われている通いの場「ふれあいクラブ」にeスポーツを導入するなどの高齢者eスポーツの地域普及活動に携わり、早くも半年が経過しています。月に１回ほど、複数のふれあいクラブの活動メニューにeスポーツを取り入れていただいており、参加者の笑顔あふれるプレーが目立っています。

ふれあいクラブ（大坪団地公民館）での活動

ふれあいクラブ（恵里公民館）での活動

「eスポーツサポーター制度」で高齢者の生きがいをつくる

様々な機会を通じてeスポーツを普及することで、eスポーツを「体験する」から「慣れ親しむ」高齢者の方も増えてきています。このような中、eスポーツに慣れ親しんでいる高齢者が、ふれあいクラブで参加者にeスポーツを教える「eスポーツサポーター」の仕組みづくりについて、市老人クラブの会員の方と連携し取り組んでいます。自身が楽しむことから一歩進んで、参加者を応援する、その場を盛り上げるといった意識を持ってもらい、自身の生きがいづくりにつながるような内容にしたいと考えています。

今後もさまざまな機会を通じて、「高齢者eスポーツの楽しさ」と「高齢者同士のつながりと相互の支え合い」をしっかりと根付かせていきたいと考えています。よろしくお願いします。

ふれあいクラブ（南走下学習センター）での活動
※ふれあいクラブ参加者をeスポーツサポーター（市老人クラブ会員）が教えています

高齢者支援課所属
有馬　義之介
協力隊mission
eスポーツでつなぐ、高齢者の元気と地域の未来

第134回

温故知新 ～うと学だより～

問 文化課 文化係☎(23)0156

五つの石棺を持つ古墳

古墳とは、地域の有力者（豪族）のために築かれた、巨大な墳丘を持つお墓です。天皇陵をはじめ、一部の古墳については被葬者の名前が推定されていることもあり、古墳に対し「特定個人の墓」というイメージを持つ方は多いのではないでしょうか。

しかし、実際には一つの古墳から複数の埋葬施設（石室・木棺・石棺など）や埋葬人骨などが発見された例が全国に数多く存在し、古墳が必ずしも一人だけを埋葬するものではないことがわかっています。そのあり方は多様で、墳丘内に複数の埋葬施設を持つものや、一つの石室・石棺に複数の人間を葬ったものなどがあります。

例えば、宇土産の馬門石で作られた石棺が発見されたことでも知られる奈良県の植山古墳は、一つの墳丘に二つの横穴式石室が造られており、推古天皇と竹田皇子の合葬陵と推定されています。また、仁徳天皇陵として有名な大阪府の大山（大仙）古墳では、前方部で竪穴式石室と石棺が発見されていますが、通常、前方後円墳の中心的な埋葬施設は後円部にあることから、少なくともうひとつ埋葬施設が存在する可能性が考えられます。

このような、複数の人を埋葬した古墳は宇土市内にもあります。代表的なものが、墳丘上から合計五つの埋葬施設が発見された花園台町の楢崎古墳です。

楢崎古墳は、全長46ｍの前方後円墳です（※1）。墳丘中心の最も高い位置に4基、少し外れた低い位置に1基、合計5基の埋葬施設が発見されています。便宜上、埋葬施設は南から順に1号～5号と呼ばれ、1号・3号は家形石棺、2号は舟形石棺、4号は長方形に掘り込んだ穴に石の蓋をのせた石蓋土壙、5号は板状の石材を組み合わせた箱形石棺と呼ばれるものです。うち1～4号はほぼ等間隔に配置され、石棺の形状などから推定される埋葬順は2号→3号→1号→4号となります。古墳自体の築造時期は、最も古い2号石棺を手がかりに、およそ5世紀後半から末と考えられます。その後、6世紀にかけて追葬（※2）が行われたとみられます。

宇土周辺では、およそ4世紀には多くの前方後円墳が造られますが、5世紀になるとその数が大きく減ります。その中で、楢崎古墳は希少な5世紀代の古墳と言えますが、それでも全長46ｍというその規模は決して大きな部類ではなく、この時代、周辺を治めた勢力が弱体化していた可能性があります。また、石棺に使われた石材は、宇土市網引町付近で採取したとみられる灰白色の凝灰岩ですが、近畿地方など遠方まで運ばれたことで知られるピンク色の凝灰岩「馬門石」とは、採掘場所が明確に異なる点に大きな特徴があります。楢崎古墳に限らず、宇土周辺でピンク色の馬門石で作られた石棺はひとつも発見されていないことから、当時、石材の使用に関して何らかの規制があった可能性があります。

このように、楢崎古墳は当時の社会を考える上で重要な情報を多く含んでおり、特に、少しずつ特徴の異なる5基の埋葬施設は、時代ごとの変化などを知る大変貴重な資料です。

楢崎古墳は昭和50年に熊本県の史跡に指定され、埋葬施設は覆屋で保護されています。覆屋の鍵は宇土市教育委員会文化課で管理しており、事前に連絡をすれば中に入って石棺を間近で見学することができます

※1　後円部に対し前方部が極端に小さい「帆立貝形前方後円墳」や円墳とみる考え方もあるが、正式に定まっていない。

※2　お墓に後から追加で埋葬すること。

楢崎古墳の墳丘上に並ぶ石棺
奥から順に１～４号棺

→楢崎古墳5号棺

←楢崎古墳の墳丘に建つ石棺覆屋（1～4号棺）